

平成26年度第2回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

1 日時
平成26年11月7日（金）13:30～15:30

2 場所
独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「平成26年産夏秋野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、秋冬野菜の需給・価格の見通しについて、10月29日開催の消費分科会で出された意見等を踏まえ意見交換。その概要を藤島座長が取りまとめ、各委員に了承を得た上で、11月13日開催の平成26年度第2回野菜需給協議会に報告することとなった。

秋冬野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

(1) 冬キャベツ（11～3月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。千葉は微増。
- 生育状況は、千葉、神奈川とも台風の影響で一部塩害が発生して植え直しをしているが、概ね順調。愛知は、年明けについては一部台風の被害があるが、全体では概ね順調。
- 出荷量は、期間を通じて概ね安定した出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、入荷増の単価安の傾向（10月中旬以降の急激な安値は、上旬までの高値により例年出荷をしない東北産の残量が出荷されたこと及び関東産の前進出荷により、入荷量が多くなったため）。12月下旬～2月出荷分に台風18・19号の影響が出る可能性あり。
- 加工・業務用は、カット野菜の納品量が増加しており、特に業務用需要では、相場に左右されることなく堅調である。また、外食では、10月上旬までの高値により、輸入品比率を高めている業者もある。

(2) 秋冬だいこん（10～3月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。千葉は地区によって増減はある。
- 生育状況は、千葉は、8月の播種時期が平年より遅れたが、その後の好天により生育は順調に推移。神奈川は、台風18・19号の影響により、塩害等の被害が一部あったが、生育は順調に推移。徳島も生育は順調に推移。
- 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微で、概ね順調な出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、順調な生育が見込まれ入荷量増の単価安の見込み。
- 一部の産地では、年明けに塩害の影響が出るのが懸念されている。
- 外食では、夏場と違いメニューも少なく、需要は少ない見込み。

(3) たまねぎ（11～3月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。
- 生育状況は、北海道は、定植の開始時期が平年よりも遅れたが、その後の好天によって平年より1週間早く終了。全体的に昨年よりも大玉傾向で、中晩成に比べて早生種の方が大玉傾向。
- 出荷量は、前年は早ばつの影響で不作であったが、本年の作柄は平年よりやや良好で、期間を通じて前年を上回る見込み。

➤

② 需要・価格見通し

- 価格は、入荷量増の単価安の見込み。
- 加工・業務用は、中国産のたまねぎの残留農薬の問題によって、国内供給に一部懸念があったが、北海道産の生育が順調で豊作傾向となっていることから、現状では大きな混乱はない。また、円安により中国産との価格差が縮まったことから、一部の外食業者では国産にシフトする動きが見られる。

(4) 冬にんじん（11～3月）

① 供給見通し

- 作付面積は、全体ではやや減少。千葉は微増
- 生育状況は、千葉は8月下旬以降の低温・日照不足の影響で、生育にやや遅れが見られるが、概ね順調。愛知は台風18・19号の影響で、一部被害はあるが、全体的に生育は概ね順調。長崎は、播種は天候不順によって平年よりも1週間遅れたが、その後の好天により、生育は順調に推移。
- 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微であり、概ね順調な出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、北海道産の残量も前年よりも多めの見込みで、千葉産も台風の影響もなく生育順調であるため入荷増の単価安が予想される。
- 加工・業務用は、前年が国産の不作により高値であったことから、中国産が多く使用されたが、本年は価格も安いこともあり国産が主流となる見込み。

(5) 秋冬はくさい（10～3月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並み。愛知は生産者の高齢化及び品目転換によりやや減少。
- 生育状況は、茨城は順調に定植作業が進み、その後の生育についても、順調に推移。愛知は、台風18・19号の影響は少なく、生育は順調に推移。兵庫は、台風18・19号の被害はなく、生育は順調に推移。
- 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微で概ね順調な出荷が見込まれることから、期間を通じて前年を上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、長野産の残量が多く入荷増の単価安が予想されるが、一部産地での病害や台風の影響（塩害）が懸念され、出荷期の終盤の3月に少なくなり、前年並みの価格になる可能性があるとみている。

- 加工・業務用は、外食でははくさいを使わない鍋メニューも増えている。一方で、忘年会・新年会シーズンでは、価格も安いことから需要は増える見込み。

(6) 冬レタス(11～3月)

① 供給見通し

- 作付面積は、作付面積は、概ね前年並み。
- 生育状況は、茨城は、順調な生育で推移。静岡は、台風18・19号の被害は軽微で順調な生育で推移。兵庫は、台風18・19号の影響で圃場が冠水し、定植できなかった時期があるものの、生育に大きな影響はない。香川は、全体的な生育は順調に推移。
- 出荷量は、12月と3月を除いて前年を上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、関東産の出荷の切り上がりが早くなり、九州産の出荷が始まるまでの11月下旬には出荷の谷間が出来る可能性がある。また、夏の長雨の影響で定植遅れの時期があり、12/中・下の出荷に影響がでる可能性。
- 加工・業務用は、本年も冬場の高騰に備えて、リスク管理対策として、台湾産の輸入を発注する業者もみられる。